

私が今回東大見学会・企業大学訪問に参加しようと思ったきっかけは、まだ将来についての具体的な考えがないからだ。興味のある分野はあっても将来就きたい職業ははっきりと決まっていない。それなのにも関わらず私は、将来と真剣に向き合おうとしたことがなかった。そんな自分を変えたいと思い、今回の東大見学会・企業大学訪問に参加した。

東大見学会・企業大学訪問は準備の段階から苦労したことが多かった。特に私は班長だったので企業のアポ取りに苦労した。班員と話し合っただけで希望の企業を最初に2つ決めたのだが、相手方の企業の都合もありその2つともアポを取るができなかった。アポの準備が遅かったこともあり、他の班は次々と企業が決まっている中私達はまだアポが取れずにいた。そんな中でようやくあともう一步でアポが取れるところまで来た。その企業は京セラ横浜事業所で、後日連絡していただけることになったのだが、その日はちょうど岩手山登山の初日であった。移動中のバスの中で連絡を取るしかないと思い、確実にバスの中にいる時間帯に連絡をいただけるようにした。わたしは連絡をいただける直前まで「バスがトンネルの中に入ったらどうしよう」「バスの中で相手の声が聞こえなかったらどうしよう」不安で不安で仕方がなかった。だが企業の方はガチで優しい対応してくださったこともあり、とても緊張したがミスなく無事にアポを取る事ができた。

そしてついに東大見学会・企業大学訪問当日。まず私達は笹川平和財団・ディレクトフォースの方々とのグループセッションをした。聞く話の全てが私にとってとても新鮮で貴重な体験となった。その中でも私が特に気になった話しは、「グローバル化する世界と日本」というテーマで講義して下さった山田正実様のお話だ。山田様は海外に12年間もの間滞在していたそうだ。山田様は「外国の方と話すとき文化の違いを意識することが重要と言われますが、その知識はネットや本だけで足りるのでしょうか」という質問に、「自分が体験したことこそが本当の知識といえる。本やネットだけに頼ってしまうのはいけない。」とおっしゃった。確かに分からないことがあると直ぐにネットに頼ってしまいがちだが、それでは表面的な知識しか得ることができない。その表面的な知識、いわゆる本当の知識とは言えない知識を増やしていかないためにも自らの体験に基づいた知識が重要であると強く実感した。

そして次に企業訪問のため、京セラ横浜事業所へと向かった。対応してくださったのは、総務の山口様と研究者の佐竹様だ。こちらの事業所では蓄電池・携帯電話・ファインセラミックスなどの研究をされているそうだ。私は「これからこちらの事業所に入社してくる人たちに望む心意気はありますか」と質問した。その質問に「自分たちが考えつかないような突拍子もないものを生み出す力を持ってほしい」と答えてくださった。新しいものを生み出す力、つまりイノベーションを存分に発揮してほしいということだ。このイノベーションとは逆に、今あるものを存続させていくオペレーションというものもある。「オペレ

ーションを大事にしていくも必要なことだが、企業がこれから成長していくためにもイノベーションがこれからの企業の柱になっていかなければならない」ともおっしゃっていた。

私はこれらの言葉が自分自身のことについて言われている気がした。いつも、現状維持できればいい、新しいことに挑戦するのが面倒だと考えてばかりいた。現状を維持するのは悪いことではないが、上へ上へと目標を高く持ち新しいことに挑戦していかなければ自分は全く成長できない。当たり前のことだが、この時改めてそれを強く感じた。さらに山口様と佐竹様はこうもおっしゃっていた。「研究は100やって100成功ということではなく、30成功したらいい」今までの私は何か新しいことを始めてもうまくいかず、大抵すぐにやめてしまっていた。だがこれからの私は、70の失敗を考えてばかりいないでやめてしまいうようになって30の成功を励みにして新しいことにどんどん挑戦していきたい。

その日の夜、二高OB・OGの東大生の方々と懇談会が開かれた。二高の先輩方ということもあり、学生時代にどれだけ勉強したか・学生時代にやっておけば良かったと後悔したこと・成績のこと将来へ向けての話など、とても実のあるお話が聞けた。先輩方の中には自分たちのときにはなかったこの研修を羨ましがっている方もいた。やはりそれだけ貴重で有意義な経験をさせてもらっていることを改めて実感した。

2日目は東大見学会だった。まず午前は東京大学駒場キャンパスを見学した。900万もの蔵書がある図書館や大きな建物の1つ全てが実験室である実験棟など様々な施設を見学した後、東大生による将来の進路や東京大学についてのプレゼンテーション、ワークシートを使った説明が行われた。東大生が東大のことを説明してくれるうちに、段々と私が今まで持っていた東大のイメージがいい意味で崩れていった。私は今まで東大＝勉強のようなイメージを持っていた。だが、とても多くのサークル、大学生活を知ったことで以前に比べ東大への親近感が増し、将来東大へ入ってみたいと思う気持ちが高まった。将来の進路についてのプレゼンテーションは、私の今後の目標を決めていくにあたってとても参考になった。特に、やりたいことが決まったらその将来から逆算していつ今すべきこと、何を目標にしていくか考えると、というものが自分のなかで一番なるほどと思った。私は将来の目標が具体的にきまっていないからといって、進路から目を背けていた。だが興味のある分野は固まっているのだから、はっきりきまっている人よりは劣るだろうが今やるべきことぐらいは将来から逆算できる。言い訳ばかり考えているより、今できることをやる。この話を聞き、これから実行していこうと決意した。

午後からは東大の本郷キャンパスに移動し、そこで研究室の見学をさせてもらった。私は主に農学部の見学をさせてもらった。農学部には、数千万円もするというタンパク質の構造を読み取る機械や、実際に魚を育てているいけすなどがあつた。大学の研究室はそう滅多に見れるものではないので大学というもののイメージを膨らますいいきっかけになった。

東大見学会の最後は東大生への質問や話し合いだった。勉強や将来についてなど堅い話から、息抜きの仕方や高校生活の話まで、様々なことを東大生と話し合うことができいい経験になったと同時にとても楽しかった。

この二日間はとても充実したものだった。そして、東大見学会・企業大学訪問に行くきっかけとなった将来への目標はまだ具体的にとまではないが、だが以前より明らかにはっきりとビジョンが見えるようになった。そのそのビジョンを現実に反映できるよう、今回体験したこと、学んだことを十分に発揮して今できること今やるべきことをこなしていきたいと思う。